



# ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2221 篠山市西古佐921 振替口座 00930-6-29629

## 特集

### ネパールツアー2015報告

掃除文化を伝えたい



ツアー参加者中村氏より贈られたカルタ遊びを通して日本を紹介しました。  
(中村氏、通訳ギリ氏、パッサン先生)



篠山中学校生徒より贈られた雑巾を使って楽しそうに掃除をするセティディビ小学校の子ども達

篠山ナマステ会単独のネパールツアーを一月に実施しました。

今回は、初めてネパールを訪れる参加者があり、篠山ナマステ会が支援するセティディビ小学校訪問による教育視察のほかネパールの自然や文化に触れる内容も加えました。

セティディビ小学校では、授業参観の他、日本紹介の時間を設けたり、参加者や教職員、児童全員で環境整備をすることにしました。多くの方々の協力で出来た学校を「自分たちで大切に、美しくする」という日本の掃除文化を伝えたいと考えました。持参した雑巾は篠山中学校二年生の生徒が作ってくれたものです。

同時に、昨年度SSSと契約した内容の履行状況確認や篠山ナマステ会設立十五周年記念事業の説明等も行ってきました。また、ラダ・クリシュナ小中学校との交流の在り方を検討するため施設見学等も行いました。

ガハテ村の自立に向けた、持続する支援のあり方を考えるツアーでもありました。

## ガハテ村の光

藤原 保

セティディビ小学校は、前回(平成二六年三月)の訪問時に比べて教育環境が改善されていました。トイレは改修され、手洗いの水も流れます。二階の図書室は、教材や日本からのメッセージも掲示されています。また、職員室も整理整頓され、職場環境も改善していました。支援しているパッサンは、教員として先輩の指導を受けながら、日本語指導の時間を設けるなど新しい風を吹き込み活躍していました。

その様子を、ツアー参加者の藤原・中村両氏にレポートして頂きましたので掲載します。

「よくもまあ、こんな所に集落がー」。山肌に張り付いた光景に絶句した。天まで切り開いた、収穫も乏しそうな段々畑と赤土の民家。幾重にも重なり合った峰の彼方にはヒマラヤの銀嶺が。眼下には深い谷を流れる大きな川が。まるで時計が止まったかのような山深い村。ここが長らく取り残されてきたガハテ村だった。

めざす学校はすぐ判明した。十五年前、篠山ナマステ会の支援により村に初めて教育の光が届いたセティディビ小学校だ。授業を参観した。電気はなくとも、ヒマラヤの光が差し込む教室には真剣に学ぶ子ども達の目が輝いていた。予期せぬあいさつに驚いた。「こんにちは。ありがと。」と可愛い歓迎のあいさつだ。担任は元PHD研修生。ナマステ会が派遣した補助教員だ。若い女性でパッサン先生という。期待の星だ。週一回、日本語の授業を実践して

いるという彼女に興味がわいてきた。

教職員、七小卒業の奨学生、学校運営委員会、保護者、SSSとの意義深い懇談を終え、パッサン先生宅に民泊した。放し飼いの鶏や山羊と共生の家だった。PHD研修のアドバイスで実現させたという彼女自慢の案内先に感動した。トイレと完成途中のシャワー室が衛生的な文化生活改善の光彩を放っていた。畑には、周辺のやせた畑では見られない有機農業の野菜が青々と育っていた。更に別の畑にも増やしていく計画だという。取り立ての野菜を使った料理をごちそうになった。また、彼女は道で出会う人に通学を促しながら、難関の教員免許取得のため大学にも通っているという。主婦・母親・教師・有機農業者・学生の顔を持ち、現実には多忙過酷な日々である。しかし、「毎日

日が楽しいです。」という。

挑戦者の姿に心からエールを送らずにはおれなかった。

仏典に「其の地域の平和・文化・教育の向上はそこに住むあなたに任せます。(趣意)」とある。まさに、パッサン先生こそ、ガハテ村の教育・衛生的健康的な文化生活・農業改善の推進者、使命の人だと思った。すべての子どもの幸せのために



プレゼントした縄跳びを紹介する藤原氏

情熱を注ぐ太陽として村に自力のみなざる光を放ち続ける人。気取らず、飾らず、優しくもたくましい一人の女性に出会えたことに感動し、健康と更なる活躍を祈った。一人立つと、二人、三人と続くであろう十年、二十年先が楽しみに思えた。

ネパールの奥地で厳しい環境のもと、大地に根を張り、村づくりに励む人間の素晴らしさ。自分だけの繁栄と幸福に甘えることなく、すべての人の尊厳が輝く世界を願うナマステ会の理念。民族・宗教・文化の差異を超え、人と人を結ぶ交流と連帯を地道に進めるナマステ会の実践。誠に得難い出会いの光に貴重な宝を発見できた感謝の旅であった。

## 「スタディツアー」に参加して

中村 嘉昭

篠山ナマステ会には、昨年入会したばかりの私が今回のツアーに参加させていただき、感謝の気持ち一杯です。ネパールと言えば、ヒマラヤ観光、世界遺産の都市、大寺院見学が脚光を浴びています。また、日本からの経済支援の報道もよく耳にします。しかし、篠山ナマステ会の特徴は、経済支援のみで終わらず現地を訪問し、人々との対話を大切に、何を必要としているのかを話し込み交流を続けられているところだと思います。十五周年を迎えられるという息の長さに敬服するばかりです。

今回の私の役割は、そのレールの上に乗る、ガハテ村を訪問し、セティディビ小学校で日本紹介の授業をすることでした。その授業をどうすればいいのかすくには思い浮かばず悩みましたが、カルタを使うことにしました。羽根つき、豆まき、七夕などで日本の行事を紹介することにしました。また、「平

和の国日本」を強調するために「日本国憲法」を入れました。余談ですが、通訳のギリさんが、広島、長崎の事を付け加えて説明して下さったのには感激してしまいました。彼は、「小学校で被爆国日本のことを学び、その後長く記憶にあり、留学地を日本に決めた」ということを話していただきました。短い授業でしたが、子ども達の学びたいという気持ちから溢れている姿に接し感動しました。



飼い、狭い棚田にいろいろな野菜を植え、自給自足の生活は、人間本来の営みをみるように思いました。

しかし、「学び」は結果として若者を都会へ

今回のツアーでは、民泊という貴重な体験をさせていただきました。山麓に張り付くように赤煉瓦の家々がほどよい間隔で建てられ、三世

代の家族が支え合い生活されている姿にまぶしさを覚えました。朝早くから、水を汲みに行き、薪を集めに出かけ、一時もじつとしていることなく働く姿に接し驚きました。水牛、山羊、鶏を

向かわせるのは当然のことかも知れません。その大きな流れは、現代日本の姿にも重なります。過疎、高齢化は他人事でなく現在日本の最大の課題です。ガハテ村が、いつまでも輝き続けられるよう、村人の自主性を損なうことなく交流を続けて行くにはどのような支援が必要なのか、まだまだ問題は山積みのように思います。

篠山ナマステ会の会員である板井さんの家族が、学校の冬休みを利用してネパールを訪問されました。小六と中二のお孫さんがネパール訪問の感想を寄せてくれました。学校では、いい交流ができたようです。

「ナマステ！」

ゆりのき台小学校 六年 山本 蒼波

日本に戻る飛行機の中で、ぼくは八日間の思い出をふり返っていました。この八日間で、ネパールの様々なことを学び、とても貴重な体験ができました。ネパールでは、チベット仏教のボダナートやヒンドゥー教のパシユパテイナートという観光地を訪ねました。そこでは、目の前に遺体が運ばれてきて、たくさん遺体が焼かれているという日本ではあり得ないようなことを目の当たりにし、驚きました。

ネパールで体験した中でセティディビ小学校の子どもたちの笑顔が強く心に残っています。SSS事務所から、車と徒歩でがけのような道を通って学校に着いたとき、子どもたちがフラワレーイを持って歓迎してくれました。その時笑顔で「ナマステ」と言ってくれたことを、今でもしっかりと覚えています。五年生の教室をのぞいた時、みんなが元気に歌って

くれました。ノートもペンもポロポロで教室には電気もないのに、みんなは楽しそうに授業を受けていました。ネパールには学校に行けない人がたくさんいるけど、ぼくたちは学校に通えるのはあたりまえだと思っていたから、自分たちの生活を見直していきたいと思いました。

機会があれば、もう一度ネパールに行つて、また小学校にも行つてみんなと交流したいです。



板井さん家族とSSSのネパール氏 (右端)

ネパールを訪れて

ゆりのき台中学校二年 山本 青波

僕は、ネパールで八日間を過ごし、たくさん良い思い出を作ることができました。ヒマラヤ山脈を見た時はすごく感動しました。滞在している間には、心に残る出来事が沢山ありました。クンタ村やガハテ村で過ごしたことが一番の思い出となりました。SSS事務所やセティディビ小学校では、ものすごく盛大な歓迎を受けたことに驚きました。フラワレーイやスカーフをかけて頂くなど、出発前には予想もしていなかったことでした。

## ■平成26年度活動報告■

- 4月1日 会計監査、4月の定例幹事会
- 4月7日 4月の臨時幹事会
- 4月19日 平成26年度定期総会を開催



清沢洋氏の講演

- 5月12日 5月の定例幹事会
- 5月28日 ネパール支援金送金
- 6月2日 6月の定例幹事
- 6月6～10日 PHD研修生ムクさん受け入れ
- 7月7日 7月の定例幹事会
- 7月28日 設立15周年記念式典実行委員会①
- 7月31日 パッサン給与送金
- 8月4日 8月の定例幹事会
- 9月1日 9月の定例幹事会
- 10月1日 ガハテ村通信No26を発行
- 10月6日 10月の定例幹事会
- 10月11～12日 篠山味まつりで黒枝豆を販売
- 10月20日 設立15周年記念式典実行委員会②
- 11月4日 11月の定例幹事会
- 11月25～30日 第12回人権フェスタinささやまに参加



写真展でガハテ村やネパールを紹介

- 12月1日 12月の定例幹事会  
ネパールカレンダー幹旋
- 12月8日 ネパールツアー事前研修会
- 12月26日 設立15周年記念式典実行委員会③
- 1月9日 1月の定例幹事会
- 1月13～21日 ネパールスタディツアー 2015実施



セティディビ小学校に清掃用具、スポーツ遊具、ゲームボードを贈る

- 1月19日 設立15周年記念式典実行委員会④
- 1月29日 ビシヨ君篠山を再訪問
- 2月9日 2月の定例幹事会
- 3月1日 ガハテ村通信No27を発行
- 3月2日 3月の定例幹事会

SSS事務所に着後、クンタ村を散歩した時に何人かの子どもたちと出会いました。言葉は通じませんが、ジェスチャーや笑顔でコミュニケーションを取り、仲良くなれました。彼らの笑顔はすてきだと思いました。僕が「ナマステ」と言うと、明るく「ナマステ」と返してくれたので嬉しく思いました。セティディビ小学校では、電気もなく教科書やノートもザラ紙をホッチキスで閉じただけで、教室も狭かったけれども、時間を掛けて通学してくる子ども達の姿を見ると強く心を動かされました。自分の将来の為に勉強したいという気持ちが僕にも伝わってきました。僕もこれから勉強を頑張らねばと思いました。

ネパールを訪れて一番驚いた事は、子どもたちの学習環境です。勉強を頑張ることだけでなく、自分達の学習環境の良さに感謝すると共に、ネパールやその他発展途上国の姿を伝えていくことが僕等に課せられた「宿題」なのかも知れません。



### 一五周年記念総会のお知らせ

■平成二七年度定期総会

五月一六日(土) 一〇時三〇分

丹南健康福祉センター二階で開催

■記念行事 一三時

ネパール関連図書贈呈式

シンポジウム

「ガハテ村からの報告」

サプコタ校長(セ小)、

ネパール氏(SSS)

「ネパールの現状と教育課題

並びに支援のあり方」